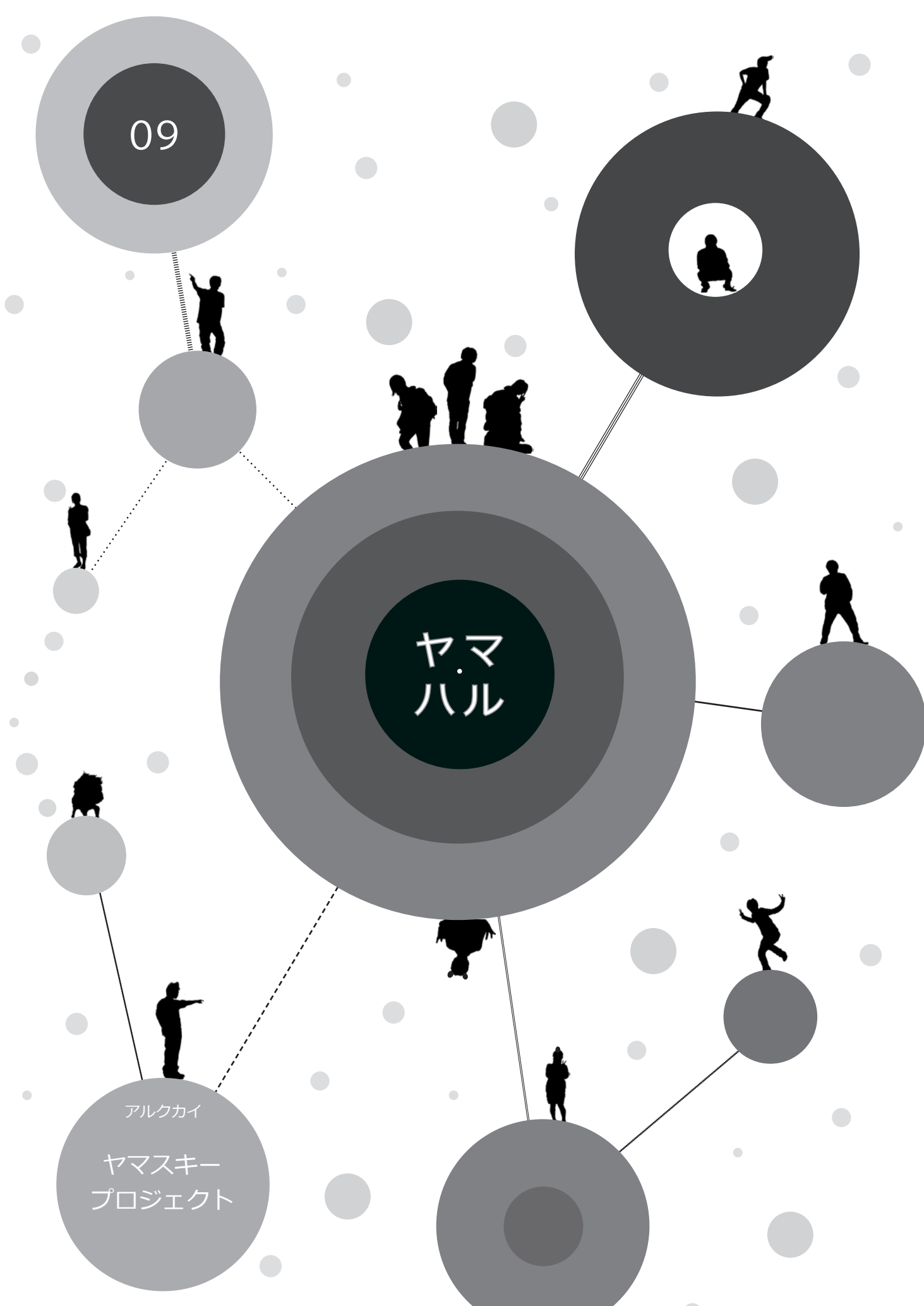


09

ヤマ  
ハル

アルクカイ  
ヤマスキー  
プロジェクト





竜馬は、

「人生は一場の芝居だいちじょうというが」  
とかつていったことがある。

「芝居とちがう点が大きくある。芝居の役者のばあいは、舞台は  
他人が作ってくれる。なまの人生は、自分で、自分のがらに適う  
舞台をこつこつ作って、そのうえで芝居をするのだ。他人が舞台  
を作ってくれやせぬ」

「どうやら、竜馬がそのうえで芝居をすべき舞台が、そろそろ出来  
あがりつつあるらしい。」

『竜馬がゆく三』

# 冬山の心得

山スキーとは山と一体となり山を遊び尽くす最強？最凶？な手段です。山スキーをする上で熟知しておかなければならないのが冬山の恐ろしさです。歩く会で行く山は比較的難度の低い所だとされていますが、生半可な気持ちで冬の雪山に入ってしまうと、怪我はもちろん、最悪の場合命を落としかねません。つい最近にも北海道で恐ろしい事故が起こってしまいました。そこで、実際に冬山ではどういう危険性があるのか、一般的な知識としていくつか紹介したいと思います。

## 雪崩【なだれ】

雪崩は冬山で一番死亡率が高い(であろう)災害です。雪崩に巻き込まれると全く身動きが取れず、15分も経てばそのまま呼吸できずに逝ってしまうでしょう。これを少しでも回避するために、歩く会では滑る直前に「弱層テスト」という雪崩の危険度を判断する方法を使います。また、ビーコンやゾンデを使った埋没者の捜索、発見の訓練や雪崩のメカニズムについてもあらかじめ「0段階」や「パラヒュ勉強会」で学習することになるでしょう。

## 凍傷・低体温症【とうしょう・ていたいおんしょう】

凍傷とは外気の寒さや雪の肌への長時間の接触によって皮膚や筋肉が凍結し壊死してしまうことを指します。また、低体温症というのは低温な外気の中にずっと晒されることで、体温が通常よりも著しく低下してしまうことを指します。また、凍った食べ物を食べても低体温症の危険に晒されます。凍傷も低体温症も防寒と汗拭きには十分気を配りましょう。

## 捻挫・骨折【ねんざ・こっせつ】

山スキーで捻挫や骨折をした山スキーヤーは大抵その一年の冬を棒に振ってしまい、そのトラウマから、絶対に滑りたくないでござる状態になる人もいます。山スキーはこける競技とも言われ、いかに上手くこけるか(受け身を取り、山側にこける)がとっても重要です。関係無いですが筆者は高校時代柔道の授業で受け身に失敗し脳震盪を起こしています。こけるのが楽しくなってくれば、貴方も立派な ~~M~~山スキーヤー。

思わず身構えてしまいそうな事ばかり書きましたが、これらは最低限冬山へ突入する時に心得しておかなければならないという事で、後は楽しい事ばかりです。まずは楽しみましょう！

スレッジハンマー生で観れて幸せ(2)

# 山スキーの仕組みと日程

歩く会では冬に山スキーを行っています。しかし、冬山には多くの危険が伴うため、前もって知識・技術および体力を身につけておく必要があります。そこで、歩く会の山スキーでは段階制を採用しています。ある一定の基準を満たさなければ次に進めないという制度です。

実際にフィールドに出て、知識・技術の習得および体力づくりを行う以外にも、救命講習・搬出訓練・パラヒュ勉強会を通じて安全に山スキーを行うために欠かせない知識を学ぶこととなります。救命講習・搬出訓練・パラヒュ勉強会は安全に山スキーを行うために必須なので、必ず参加してください。

10月

山スキー説明会 募集 装備放出

11月

## 0 段階

雪崩や準備運動の仕方など山スキーに必要な基礎知識に関する勉強会と実際の装備を用意して、道具の調整やチェックをします。

初すべり

## I 段階

スキー場で滑走技術・登行技術を身につけます。I 段階はII 段階への土台となるものなので、ここでしっかり冬山に関する知識と技術を身につけます。  
(～1月頃)

12月

**救命講習** 防災協会の方をお呼びして、心肺蘇生法の講習を受けます。12/6

**搬出訓練** 山で負傷した人を運ぶことを想定した訓練。その他に遭難対策の勉強もします。12/12

**パラヒュ勉強会** 手稲にある山小屋に泊まり、フィールドを想定した雪崩に関する勉強会をします。  
12/19,20

## II 段階

スキー場でない冬山に行きます。圧雪されていない深雪での滑りを身につけます。  
スキー場とは違って、目の前に広がる白銀の世界に圧倒されるはずです。

1月

## III 段階

札幌近郊の比較的厳しめの山に行きます。樹林限界の景色はまさに冬山。感動的な景色が広がります。

3月

徐々にあたたかくなり始め、冬山のシーズンが終わりを迎えます。道具の手入れをして翌シーズンに備えましょう。  
文責左山(2)

# 0段階

0段階は、歩く会山スキーがいよいよ始まる最初の行事です。今期の山スキーヤーが皆集い、実際滑るための準備をします。

山スキーのフィールドに出るための知識を身につけたり、各々の装備をチェックしスキー場に行ったらすぐに使えるように準備をします。

これに参加しなければ、歩く会山スキーヤーとして活動が開始できない非常に大切なものです。また、一年目にとっては、板や靴をお披露目する日でもあります。上でも板を新調した人はうれしそうに抱えてくれでしょう。みな興味津々で見てくること間違いなし。

1年目にとっては面識のない上の人がたくさんやってきて顔合わせの意味もあります。上の人も1年目と話したくてしょうがないので、どんどん話しかけ、仲良くなってしまう！そしてもらえる知識・技術をもらいましょう。

0段階では装備のチェックをするので以下のものを揃えておきましょう。

スキー板・ビンディング・ブーツ・シール・ストック

・ウェア・手袋・レスキューパック

装備は放出品をもらえる場合はそれで問題ありませんが、自分で買うことになったら、必ず先輩に装備についてのアドバイスをもらい、できるならば、下見・購入時にもついてきてもらってください。レスキューパックも夏山のものとは異なるので、先輩に聞いてしっかりと揃えておいてください。揃えるのはなかなか大変だけど、山スキーがどんどん楽しみになってきます。

0段階にみんなのドキドキ・わくわくの笑顔を見られることを楽しみに…

# I 段階

I 段階とは冬山に行くための試験のようなものです。いきなり冬山に行くと危険なのでスキー場で冬山での技術を身に付けます。I 段階はII 段階の土台となるものなので、ここでしっかりと技術を身につける必要があります。ここで「判定」を受けて合格しないと山には行けません。

I 段階で身につける技術は大きく分けて

- ・登りの技術
- ・滑りの技術
- ・冬山技術

の三つです。

## ・登り

まず初めにみんなで輪になって準備体操をします。I 段階に行く前にしっかりと準備体操を覚えておきましょう。

山スキーでは「シール」という、後滑りを防ぐ道具を板につけて登ります。リフト代はかからないけれど普通に滑っている人たちの横を列になって登っていくので少し恥ずかしいです・・・しかもザックを背負い、重いブーツと板のまま登っていくので慣れるまでとても疲れます。冬なのに汗が出るくらいです。登りでは板を持ちあげずに歩くことやストックを使いこなすことなどコツがあるのですが、詳しくはI 段階で上の人に聞きましょう。登りの技術の中で最大のポイントの一つがジルブレッターターン通称「ジル」ではないでしょうか。これは深雪の斜面を登るときに用いる技術です。





写真のように板を持ち上げて方向転換します。これも詳しくは上の人に教えてもらいましょう。 シールを外してから「階段登行」や「ハノ字登行」などがあります。

#### ・滑り

まず求められるのが「テレマークポジション」通称「テレポジ」を作ることです。



アルペンとは違って、足を前後に開いて滑ります。前後への重心配分が難しくバランスがとりにくいです。テレポジを作るときの重要なポイントは①開いた足の真ん中に乗ること②下腹を前に出し、懐を深く保つこと③背骨を丸めること（らしい）です。まあ実際に見て、やってみた方がよくわかると思います。

滑りの技術の中での最大のポイントの一つが「急制動」です。急制動とはある程度のスピードで滑っている状態から急にテレポジを作って止まる技術です。これには素早い板の操作と一定のテレポジ、ターンの技術が必要です。最終的に急制動ができるように頑張りましょう。

また、転び方と起き上がり方もポイントの一つです。転ぶ時は足から、そして山側に倒れると安全だと言われています。起き上がる時はストックに体重をかけて、なるべく速く起き上がれるようにしましょう。

やはりI段階で一番苦勞するのは滑りだと思われるので、スキー練習に行くのがI段階合格への近道でしょう。平日にナイターに行ったり、計画のない休日に同期や上の人と練習に行くのもよいでしょう。冬本番になると近場のスキー場もオープンするのでどんどん秘密特訓に行きましょう。忙しくて練習に行けない人はI段階にたくさん行って練習するのも良いと思います。

## ・冬山技術

### (1) シール



シールには貼り付け式と取り付け式があり、歩く会の中では貼り付け式を使っている人が多いです。貼り付け式は接着面に雪がつくと粘着力を失った（「シールが死んだ」）状態になってしまうので着脱には注意が必要です。取り付け式はそんな心配はいりませんが登っているうちに緩んできてくるのでシールを締めなおす必要があります。シールの着脱が一番最後にやってくるCLより早く作業を終えることが合格の目安となっています。早く慣れるように頑張りましょう。

### (2) ツェルト張り





I 段階の途中でツェルトというものを張ります。ツェルトとはテントのようなもので板とストックと軍手を使って張ります。ここで軍手を素早く出すことができると CL の評価が上がると言われています。なるべく早く手順を覚えて素早く張れるようにしましょう。ツェルトを張り、たわしでブーツについた雪を取って中に入ると、ラジウスでお湯を沸かしてお茶会が開催されます。ここで出す飲み物や食べ物でも CL の評価が上がるかもしれません。

### (3) 飲食物

夏山では飲み物の外付けができましたが、冬山では凍ってしまうので飲み物の外付けは禁止です。食べ物もおにぎりは凍ってしまうので避けた方が良いです。飲み物と食べ物はザックの背中側に入れて凍るのを防ぎましょう。ちなみにスキー場は物価が高いので飲食物は事前におきましょう。

### (4) 雪の上に物を置かない

雪の上に物を置くと転がって行った時に雪に埋まって見つからなくなってしまう。スキー板だったらどこまでも滑って行ってしまったり、ほかの人に当たってしまうかもしれません。そのため冬山では板やストックは雪に刺し、ザックの上に物を置くようにしましょう。また、ウェアのポケットに入れたりもするので、ウェアはポケットが大きいものを選びましょう。

### (5) 服を濡らさない

服を濡らすと体が冷えて低体温症などにつながる恐れがあります。転んでもすぐに起きあがったり、服に雪がついたら出来るだけ払い落とすようにしましょう。

### (6) その他

忘れ物をしないように注意しましょう。共同装備を忘れたら一発でアウトなので家を出る前によく確認しましょう。

# 装備

山スキーを楽しむための必需品  
ある程度理解した上で購入したいものです

その為には自分がどのような滑りをしたいのかイメージしておくことが重要  
先輩の話や動画を観たりし、「憧れの滑り」というものを持っておくといいかも

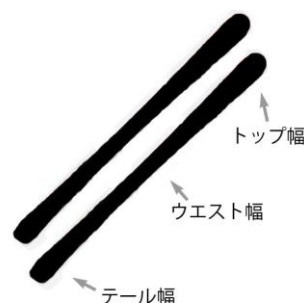
## ○板

初めに気にしておくことは次の三つ。太さ、長さ、そしてデザイン。

### ー太さ

簡単に説明してしまえば、太いほど山向け、細いほどゲレンデ向け。  
ゲレンデで練習し計画で山へ行く歩く会には、その中間である位置付けの  
セミファット(ウエスト幅 74-85mm)ぐらいがおすすめである。現在歩く会内の  
山スキーヤーは9割近くがこれに分類されるであろう。

ちなみにトップ幅 117mm、ウエスト幅 80mm、テール幅 105mm の場合 117-80-105 と表  
記されるのが一般的。覚えておこう。



### ー長さ

板が細いほど長く、太いほど短いものが適しているといわれているが、  
極端に細い・太いというわけでなければ身長+0~15cm が適切である。

### ーデザイン

とりあえずデザイン。外見から入りたい人もそうでない人も気にはするところ。  
これに関してはお好きにどうぞ。デザインだけで板を選ぶ人もいるとかいないとか。

キーワード：重量、ばたつき、フレックス、サイドカット、ツインチップ

## ○ビンディング

ビンディングにはバネが入っており、踵をあげるのに必要な力が変わってくる。  
そこがビンディング選びのポイントとなるだろう。ガンガン滑りたい人は滑り重視、  
滑りのために体力をとっておきたいという人は登り重視がベター。



	歩行の軽快性(登り)重視	強い固定感(滑り)重視
Black Diamond	O3、(O1*)	O2、(O1*)
Rottefella	R4	R8
G3	タルガ、(タルガアッセント*)	(タルガアッセント*)

\* O1 とタルガアッセントはつま先が浮き上がる仕組みになっており(詳しくは店などで  
実物を)、値段は少し張るが登り・滑りともに有利である。

キーワード：ねじれ、クライミングワイヤー、ケーブルの耐久、3ピン

## ○ブーツ

こちらもビンディングと同様に、大きく見ると滑り重視か登り重視かで分けられる。自分の好みの滑りにあったタイプのもの、そしてなによりフィットするものを選ぶというのが重要。

歩く会向けにはスタンダードもしくはオールラウンドあたりのものがおすすめ。ここらへんのはオールマイティーに使える、自分が上手くなった後でも使うことが可能だろう。



	スカルパ	ガルモント	クリスピー	
登り重視 ↑	ツアー向け	T4、T3	EXCURSION	—
	スタンダード	T2R	EVO	CX-A
	オールラウンド	T2X	SYNER-G、GENESIS	CX-P
	滑り重視	T1	ENER-G	XP-LIGHT
↓ 滑り重視	レース用	T-RACE	—	X-R

キーワード：蛇腹(位置・柔らかさ)、バックル(位置・数)、インナー、重量、革靴

## ○シール

山に登る際にスキー板の裏側に貼り付け、後方に滑らないようにするもの。選ぶ基準としては長さ・幅、装着方式。幅はウエスト幅ぐらいか、気持ち大きめのものを買っておくと良い。

値段は張るが、カットや金具の取り付けなどの作業をしなくて済む既製品も存在する。ちなみにそれらの作業は0段階で行う予定。

### —貼り付け式

粘着力を使い板に貼り付けるため、ずれなくて登りやすい。また、板の形に合わせてカットすることが可能。ただし、粘着面に雪が付くと粘着力が(一時的に)かなり落ちるので取り扱いには注意が必要である。最近の主流。

### —取り付け式

紐で固定するので登っている最中に緩むことがあり、その都度締め直す必要がある。しかし、取り外しや保管など雑に扱っても特に問題なく、そのためシールの付け外しにかかる時間・労力を短縮出来る。ただ、最近の太い板に対応するものがなかなかない。

## ○ウェア

基本的に防水加工してあるものならばなんでもよい。一般のスキー・スノーボード用などでも可。登りで汗だくになってしまわないよう薄手のものを買って、寒さ調節はフリースなどのインナーですると快適。

財布に余裕があれば GORE-TEX がいい。あと、ポケットが大きいとシールがしまえて楽。

## ○ストック

ストックには調節式と固定式などがあるが、基本的にはなんでもよい。ただし、ストックリングを深雪用のものに替える必要があるので別途用意を。

調節式は上級者向け。安くて丈夫な固定式のものでよいだろう。

## ○ゴーグル

曇り止めレンズのものを用意すべし。ダブルレンズだとさらに曇りにくく、なお良し。また、山中では注意していても曇ってしまうことが多いので、換気性の高いものを選ぶと完璧。

ちなみに、めがねを着用したままでも付けられるゴーグルもあるが、曇りやすい。そのためファン付きゴーグルなるものが存在するとかしないとか。

## ○ミトン(手袋)

手袋はインナーとオーバーミトンの二つに分かれている必要がある。インナーに軍手はNG。これらさえ守っていれば何でもよい。

手首から雪が入らないような、ひじまであるものがおすすめ。

## ○帽子・ネックウォーマー

化繊のものならば何でも良し。

装備についてはまだまだわからない事がたくさんあると思うので、その際は遠慮なく近くの先輩へ。どの先輩も優しく教えてくれること間違いなし！

また、ここで説明したのはあくまで装備に対するとっかかり的なものばかりであって、もっと深い・細かい内容はまだまだあります。それらを「キーワード」として一部載せておいたので、ある程度の知識がつき、興味を持ったならネットなどで検索し、さらにその幅を広げてみるといいでしょう。

文責 今井(2)



# 11 s ネオパラ

手稲スキー場の隣にあるネオパラ。  
誰もが一度は行くであろうフィールドです。  
遊び斜面がとても楽しいこのフィールドですが  
計画後の焼肉も魅力の一つだと思います。  
そんなネオパラを紹介します。

学名	手稲山ネオパラダイスコース
体長	登り 3時間くらい 下り 2時間くらい
生息地	札幌市西部 (地下鉄とバスで行きます。)
シール	東西線発寒南駅で装着
特徴	<p>第一斜面、第二斜面、第三斜面という三つの斜面があり、第二斜面では時間があれば登り返して自由に滑ることができます。判定を気にせず滑れるのでとても楽しめます。でもここは雪が少ないと笹が大量に出現して板に引っ掛かって転んでしまいます。ひたすら滑るもよし、晴れていれば、札幌市街を見渡す眺めを満喫するのもよいでしょう。</p> <p>斜面を滑った後は林道を滑ります。スピードが結構出る上に、途中に穴があったりしてドキドキハラハラできます。こけないように注意しましょう。</p> <p>計画後は「とんとん亭」という格安焼肉食べ放題のお店へ。その後には始まる反省会のことや、フリースに焼き肉のにおいがつくことなど気にせず、心ゆくまでお肉を食べまくりましょう。</p>
その他	<p>運が良かったら見られるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ストックは折れても心はまっすぐな人</li><li>・スコップ・ゾンデを忘れる人</li><li>・シールをつけたまま滑る人</li></ul>

ぜひ一緒にネオパラに行きましょう！

文責 小笠原(2)



## Ⅱs 馬の背

馬の背はⅡ段階で最大級の長さを誇るフィールドです。名前の由来は昔々、この地で暴れまわっていた馬の化け物を神様のなんかすごい牛が鎮め、その馬の亡骸の上に木々が茂り山となった。というアイヌの神話からきているそうです。ですので、馬の上には牛がいるとか。

その長いコースが見せる様々な表情もここの魅力の一つです。林道や樹林内はもちろん、ロックガーデンやゲレンデ気分のゴルフ場滑走なんかも。めったにできるものではないですよ。ついでに、ロックガーデン周辺から見える銭函天狗岳には一見の価値あります。少しばかりの雪化粧と剥き出しの岩肌。そして天を突き破るように陰しくそびえる姿。一度見ると忘れられません。天気の良い日などはなお良しです。

そんなこんなで馬の背を攻略し、達成感に浸るもつかの間。下山したはずのメンバーの前になぜか盛られた白い山。そう、馬の背の伝統「特盛りそば」です。なんということでしょう。ゴール近くにあるこの蕎麦屋で第二ラウンドの開始です。先代の言葉を借りれば、これを制覇してこそ真の「馬の背マイスター」になり得る、とのこと。

最後に、馬の背はいわゆる縦走です。と言っても夏にでるような泊まりではないです。単に登山口とゴールが違うという事。Ⅱ段階でもレアですね。それでも一応は縦走なので、夏山で縦走できなかった人は縦走覇者を名乗れるチャンスですよ。



# 春香山

春香山!!歩く会員なら夏、冬通して一度は行くことになるのではないかという場所です。

山スキーにとっては、Ⅱ段階唯一の泊まり計画!

暖かくて小屋は快適。2段ベッドがあり、修学旅行気分(笑)

そして、春香山の何よりの魅力は、小屋上の斜面!!誰が見ても、滑りたくなります。そして、なんだか、他のフィールドより上手く滑れるような…

これは、本当かわかりませんが、景色もいいし、気持ちいいのはまちがいなし!

春香山は、札幌駅から小樽方面に電車でトコトコと銭函駅へ。そこから、バスに乗り、登山口へ向かいます。銭箱駅で皆でシールを貼ります。近くに大学もあり、奇異な目で見られますが、気にしない。アタックと板を持っているだけで怪しいんだから。

さあ、いよいよ登山口!登り開始。最初は緩やかな林道。だんだんと斜度は増していきつらくなります。でも、きついな~と思っているうちに、小屋が!!

小屋に荷物を下ろし、ここからはサブ装で。思いっきり滑りましょう!

滑りももちろん楽しいけれど、泊まり計画はやっぱり、夜。みんなで今までの計画などいろいろ語り合います!

1年目の皆はとりあえず、ここを目指すといいと思います。

今年は山スキーヤー、みんなで行けたらいいですね◎

## 山スキーはるか原稿

From: タカイール(4)

宛先: 1 年目

### 無意根山

無意根山っていうのはⅢAのフィールドです。そのまま「むいね」って打ち込んでも変換されないので「無意味」って打って「味」を消してから「根」って打ちます。なんとなくやるせない感じですね。さてこの無意根山ですが、どんな所かというとはよくわかりません。これを書いている人は山小屋までしか行ったことが無いからです。なぜそんな人間が紹介文を書いているのか。それはここ二年間の無意根を襲った豪雪のせいです。雪がすごすぎてタイムが足りなかったんですね。二年連続で。なので他に人が居ないのも納得です。というわけでまずは山小屋までの道程ですが、これはもうひたすら林道が続きます。ちゃんと整備されているとも言えるのですが、正直単調な登りがつづら折れで続くので飽きてきます。まあ先っぽだけ出てるカーブミラーとか珍しい光景もあるので他のメンバーと会話を楽しみましょう。単調な林道も宝来小屋までです。宝来小屋はほとんど雪に埋まっており、残念ながらここには泊られません。休憩だけに留めておきましょう。宝来小屋から先は他の山スキーのフィールド同様、ちゃんと山の中を進んでいきます。やっとな地図とコンパスが威力を発揮します。その日泊まるのは「無意根尻小屋」というすてきな山小屋です。ギターとか置いてあっていい感じですよ。他のⅢAフィールド同様、他に人が居る確率はさほど高くありません。貸し切り状態の山小屋は山スキーの大きな魅力の一つですね。山小屋を満喫した翌日はいよいよ無意根最大のお楽しみ、大斜面と西斜面があなたを待っています。大斜面はその名に恥じぬ大斜面っぷりできっとあなたの想像の上を行くことでしょう。超でかいです。行ったこと無いけど。西斜面は天候に恵まれなければ行けない山スキーヤー憧れの斜面です。もうここ数年歩く会では行けてないのでほとんど幻ですね。あと無意根山は標高1460m、これは歩く会の山スキーフィールドでは最高を誇っており、景色もきっと良いと思われます。是非一度行ってみてください。そして山を降りれば「吉兆」という超高級旅館(一泊24,000~)にCLが電話を借りに行くので軽くからかってあげましょう。打ち上げまできっちりテンションを維持すれば歩く会の冬の思い出が一ページ増えること請け合いです。

文責高井(4)

## ⅢA 札幌岳

華のⅢ段階の中でもなぜかあまり人気がないフィールドですが良いところなので紹介します。ⅢA の中では比較的簡単なので、ワンデと日程が被らなければ1年目のみなさんも行けるかもしれません

### <登山口～冷水小屋>

登山口にはエセ冷水小屋があります。「小屋に着きましたね！！」って言えばやさしい上の人がつっこんでくれるかもしれません。小屋まではひたすら沢沿いを行います。景色の変化もなく正直退屈です。途中何回か、幼いころ誰もが恐怖した「金田一少年の事件簿 雪夜叉伝説殺人事件」のメイントリックにも使用された雪の橋(本編では氷だったけど)スノーブリッジを渡ります。丈夫なのでそんなに心配は要りません。そうこうしているうちに大きな林道とぶつかり、気がついたときには本物の冷水小屋に着いているでしょう。

### <小屋～ピーク>

ここからが本番。夏には使用しない冬道を使っていきます。夏に行ったことのある人には新鮮かも。最初の関門は滝。歩く会の専門外じゃねーのってくらいの斜度を登ってゆきます。板を脱ぐのが一般的ですが、板を履いたまま攻略するツワモノも。滝を越えれば北海道 No.1 の斜面、「ルスツの壁」が待ち受ける。ピークへは稜線を歩いていきます。晴れば周囲を一望できる最高の景色(らしい)、天気恵まれないときにはブリザード行軍を楽しめます(よい子は絶対にしてはいけません)その後は滑りを楽しんで小屋に戻ります。小屋裏にも斜面があり、少しの時間で滑りを楽しむことができるらしいです(私は滑ったことないです)冷水小屋には座敷童子が住んでいるので運がよければ会えるかも。夜寝ていると、「寒いよ～寒いよ～」と抱きついてきて、ザックに入って遊ぶのが好きらしいです。彼の悪戯により、小屋では毎回地震が起こります。びっくりしないようにね。運がよければジャックという犬にも会えるらしいですが私は会ったことないです。今年は会えるといいな～



## ②年目紹介

歩く会生活も早二年。

今年も山が白く染まり、スキーの季節がやってきた！

良くも悪くも折り返し地点にいるスキーヤー達は、

どいつもこいつも癖のある奴らばかりです。

そんな訳で、早く一年目に扱いを知ってもらうためにも、

二年目紹介ははじめますよ。

### —後ろ滑り今井—

ミスターパーフェクトこと今井先生。ユーリ。やる気しだいでどんな仕事もそつなくこなす。その柔らかい見た目と物腰から周囲からは高評価をうけがちだが、実はとってもズルい男。そんな彼の山スキー愛には目を見張るものがある。実際、同期でもトップクラスの実力だ。が腹が立つのでこれ以上は誉めない。最近小技にこっているようなので、機会があったら「ヒグチスペシャル見せてください！」と頼んでみよう。今年の全体合宿で彼女ができた。

### —ノーブレイキ大西—

コロソ。走り出したら止まらない。好奇心のまま突っ込む姿勢は時に成果を、だいたい悲惨事を呼ぶ。山スキーでもそれは変わらず、雪面に頭からつつこんだ回数にははかりしれない。なので参考にはしないで下さい。言うまでもなく急制動は苦手である。I段階で少しばかり苦労したので、似たような境遇の一年目は生温かい目で見守るだろう。余談だが、今年はヒュッテで今井を埋めてやろうと企んでいる。

### —育ち盛り小笠原—

基本的にユカ。たまにゆかちゃん。最近おがちゃん。畜舎で家畜と格闘する日々を送る農家の嫁。旺盛な食欲と活発な行動力によりいまだ成長中だ。山スキーにおいてもそれは変わらず、昨日の彼女と今日の彼女はもはや別人である。冬山では「ふぁー」という気のぬけた声と共にやってきては皆の緊張感を奪っていく。安定度の高い滑りなので判定のある日は参考にしよう。食べ物にあたえて機嫌をとるのも忘れないように。



## —4WD 左山—

通称さっちゃんです。一部マニアから「ひだりやま」さんとも呼ばれています。特筆すべきはやはりそのパワーですね。K-tech. 社で開発・設計されたモデルで、燃費は悪いですが馬力がすごいです。冬山の中でもモービルも真っ青の機動力を誇りますよ。去年は開発チームがまとまらなくて作業が遅れ気味でしたが、今年は試作を重ねて良い仕上がりになっております。今シーズンのお供にいかがですか？

## —たこ焼きマイスター鈴木—

いわゆるトシ。ヒタチと間違うので鈴木とは呼ばれない。人の良さそうな笑みを湛えた顔で色々やらかしたりする。でも顔どおりの子なので下の面倒見はとても良いことでしょう。ボーイスクウト上がりの肉体と経験で冬山にも難なく参戦。去年は癖のあるロングな板で奮闘していたようなので、板をもらったら色々聞いてみよう。I 段階のフィールドである手稲ハイランドの「銀だこ」に激しいライバル心を抱いている。

## —レジェンド原—

ハラユ。夏山でもパワフルなその活動力は、冬になっても衰えることを知らない。去年も遭難未遂、ブリザード行軍、シールをむにゃむにゃしたりと伝説はとまらない。同期で最もハードな経歴を持つ。しかし、経験値0から立派なテレポジを完成させ、実は一番伸びたのも彼女かも。伸び悩んだら意見を仰いでみよう。おがちゃん（前述）同様、ブレの少ない滑走をする。夏山が不完全燃焼らしいので、冬山で発散させてください。

## —ホシ王子 《rare!》—

誰もが一度は耳にした、サワガシラベリの「ホシは王子様」の主人公。旅立ちが決まっているにもかかわらず山スキーを選択したツワモノ。今は目に見えない大切なものを求めて、南の地で生活を送っている。もしかしたらほんとに稀にグレンデに出現するかもしれない。本家と違ってこちらは高齢である。

## 独断と偏見に基づく山スキー3年目紹介

さたけん(Ken the Satan)

今期、クロカニスト解放軍の幹部・カリマーとの会長選でまさかの敗北を喫し、ニート寸前にまで追いやられたスーパーライダー。夏は専ら愛車で北海道を回っていた。冬もそのぐらいスキー板に乗ってほしいものである。昨年は無意根と白井岳に心を塑性変形(plastic deformation)させられ、もう山スキーに興味はないと言いつつもきっちり山プロに出現するツンデレっぷりは流石である。きっとベランダに放置してあるという板も、今頃は念入りに手入れしているに違いない。前述のとおり山スキーなんかよりバイクや車を心から愛する根っからのオイリーボーイであるので、興味がある人は~~棒~~山スキーそっちのけで話しかけてみよう。

りよーちん(Liang Zhen)

2年前、誰もがエースとなることを期待していた悲劇の英雄。昨年はⅢ段階との戦いによって体の各部に爆弾を抱え、今期は製図というオメガウェポン級のモンスターカリキュラムとの戦いに集中せざるを得なくなり、まさかの長期休養宣言。誠に遺憾である。趣味でボードをやっているが、スキー場で滑っている姿を見かけたら直ちに通報しよう。老いてもなお、類稀なるセンスの花は枯れていないはずなので、スキーと飲み会に誘ったら来てくれないこともないかも。才能の無駄遣いはよくないよ！久しぶりに会ったときには「見ないうちに痩せましたね！」と言えばきっと喜ぶはずだ。

θ (Theta=Tamon)

本人を含め誰も山プロリーダーをやるなんて思っていなかっただろう。器と役職が黒板を発泡スチロールで擦ったときのような不協和音を奏でること間違いなしであるが、生暖かい目で見守ってもらえることが出来れば幸いだ。今期は無意根へのリベンジ、また、クロカニストとの友愛政策も進めていく予定である。1年生とは是非みんなで春香の斜面を滑りたいな。本当にいいところだから・・・なお、本人の笑顔と愛用の板のデザインは軒並み不評である。

しましま(Shima=Shima)

髪は曲がれど(以下略)の信念の下、日々歩く会の進歩と刷新を考える山スキー革命軍の先鋭。自分は坂本龍馬の生まれ変わりであると信じて疑わない。今期は婚就活という夷敵との戦争のため、革命運動参加には苦戦が予想されるが、戦<sup>いくさ</sup>の中で身に付けた「たくちいき」や「すとらときい」を山プロにどう反映させてくれるのか誠に楽しみである。また来年も ONZE で(なにあれ)チョー受けるんだけどww)って人に指をさされたいでござるなあ。今度江戸に遠征に出かけるらしいので、暇な人はお供してあげよう。

## なるみん(*Empress*)

夢追い人。昨年までは「山スキー女帝」として歩く会に君臨していたが、今期は *Dreams come true* のために充電中である。しかし、歩く会と距離を置いてもおおその影響力は絶大なものであり、彼女の犠牲カリスマ性に魅入られるファンは数知れず。来年はカムバック宣言をしているので、帰ってくる日を楽しみに待っていよう。1年目は万が一が一会えたらきつといろいろなアドバイスをもらえることだろう。

### <闇スキーヤー達>

フォースの暗黒面に取り憑かれ、ダークサイドに堕ちた山スキーヤー達を指す。彼らの冬の間の活動は謎に包まれている。しま曰く「ムーミン」でいう「スナフキン」的なポジションらしいが、歴史上の人物と侮っていると彼のダース・プレイガス卿のように寝首を搔かれることになるので、遭遇した場合は、自分のフォースをしっかりと信じて応戦しよう。

## 一歩(*Mr.Muscle*)

野球と文学(特に村上春樹)と酒と筋肉をこよなく愛するボディビルダー。最近はめっきりリアキャラとなってしまったが、ヒロトと「つくし」に出没する姿が度々目撃されている。哲学者でもあるので、酒を片手に話しかければ大いに語ってくれることでしょう。

## たちばな(*Vagabond*)

θの畏と1年目ワンデへの充電のためダークサイドへ……。最近教師を辞めて放浪者になったらしい。久しぶりに会っても全くブランクを感じさせない君の行動力、人生経験は羨ましい限りです。今期は忘年会に颯爽と現れみんなをすすきのへと導いてくれることが期待される。

じゃあ、苦情を聞こうか え？髪を切れだって?(3)

# 4年目の心境

**タカイ (22)**  
 あだ名：指レンジャー  
 前役職：後期会長  
 板：G3  
 好きな山：無意根山  
 行きたい山：無意根山  
 内定先：菓子メーカー  
 今年の抱負：ロックな滑りを追求



**アライ (22)**  
 あだ名：アライール  
 前役職：後期マニュアル係  
 板：K2  
 好きな山：奥手稲山  
 行きたい山：手稲山  
 内定先：IT関連  
 今年の抱負：1本のスロープで勝負

## クロカニストがインタビュー

今年で4年目となる彼らは今、どのような心境で今年の冬を迎えるのだろうか。今まで山スキーにどういう思いを抱いて滑っていたのか。同期でクロカニストである私が二人に聞いてみた。

### 必要なものは

## お金と時間

—こんにちは。今日は十月十六日です。んじゃ早速質問に答えてもらおうか。  
 新井「何でも訊いて。全部高井が答えるから。(笑)」  
 高井「おう、まかしとけ。」  
 —では、まず山スキーの良い所を教えてください？  
 新井「いきなり難しい質問だな。」  
 高井「まあ、パウダースノーじゃない？ターンするたびに浮く感覚と、転んでも痛くない雪のやさしさがいね。」  
 新井「あれはやばい。あの浮力感は最高だ。」

—パウダースノーね。他は？  
 新井「山小屋だね。奥手—ONZE縦走で泊まる『山の家』がおススメだよ。」  
 高井「確かにあそこは良かったな。ギターあるし。」  
 —そう、高井の歌っているビデオ見たわ。雰囲気よさそうだった。  
 新井「でしょでしょ。」  
 高井「あれは正直恥ずかしいさ。削除要請します。」  
 —じゃあ、今度は悪い所を教えてください？  
 高井「お金がかかることだね。1年目のときは、装備をそろえるのに金かかるからね。でも2年目以降は、それほどでもないよ。」  
 新井「そうか？上達すると、板やブーツを替えたくない？」  
 高井「まあね。でもいくらなんでもゴーグルまでこだわる必要はないでしょ。」

新井「そうだな。」  
 —お金か。確かにクロカンの方が安上がりだね。装備は無料で借りられるから。  
 新井「いや、でもたくさん計画に行くとクロカンも結構使うぞ。ガス代、飯代、ガス代、レンタ代、ガス代…」  
 —ガス代言いすぎでしょ。(笑)  
 高井「あと時間が結構とられるね。山スキーは歩く会でも危険度の高い活動だから、勉強しなければならないことがたくさんあるから。」  
 新井「救命講習とか。ヒッヒッフーとかやるよ。」  
 —それ、ラマーズ法だよ。酔いすぎ。  
 新井「すまん。次の質問の前にトイレ行ってくるわ。」  
 —あいつ、最近酔うの早くない？  
 高井「年だよ、年。まあ今年はいろいろあったからな。」  
 新井「なんか言ったか？」

### 今、1年目は

## 選択の時期

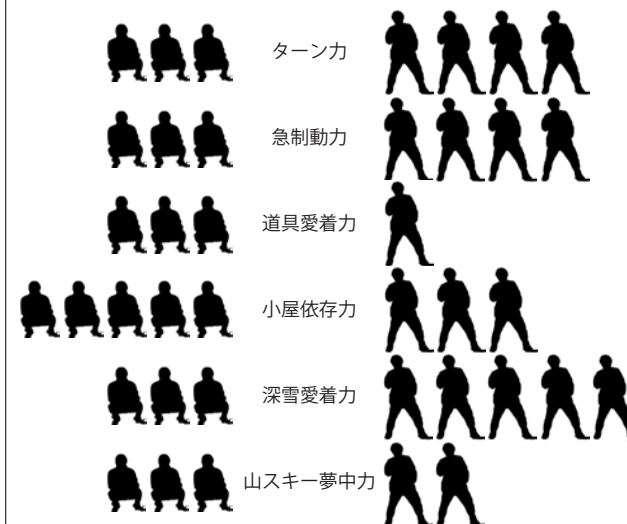
—アライールが戻ってきたので、次の質問に行きます。なぜ山スキーをえらんだん？  
 新井「スキーがしたかった。スキーの中でも、テレマークというメジャーではないものをしてきたから。」  
 —指レンジャーは？  
 高井「俺は、夏に先輩達と無意根山に登ったことがあって、その時の先輩の話聞いて、滑ってみたいと思ったからかな。」  
 新井「そして未だに無意根滑れずじまい。」  
 高井「そうなんだよ。まあ今年もチャレンジだね。」  
 —へえ、そんなエピソードあったん。あとビデオの影響ない？あれ見ると

俺もやってみたくなるわ。  
 新井「なるね、なるなる。さすがだね、さくらさん。」  
 高井「動画は臨場感あるね。お前も動画撮ってなかったっけ？」  
 新井「おう。春香と石狩縦走がホームページにアップされてるよ。」  
 —もう撮らんの？  
 新井「もう飽きた。(笑)ビデオ撮ると、自分の滑りを犠牲にしなければならぬ。」  
 —そりゃ、もったいないわな。  
 高井「去年からじゃがーさんが燃えているから、そっちを期待するよ。」  
 新井「そうそう。転んだばかりの動画じゃなくて、メリハリのきいたやつをね。」  
 —でもビデオってええなあ。自分の滑りを見るのは恥ずかしいって聞くけど、自分や他人の成長度合いがわかるやろ？進化論や。」  
 新井「進化論とはおかげさだけど、いい見本になるね。最初は全然滑ることができなかった人が、一年でこ

うも変わるのかっていうのは1年目には励みになるんじゃない？」  
 高井「最初は苦労するけど、なんだかんた皆上手くなるよね。まあ俺はそんなに苦労しなかったけど。」  
 —さすが道産子や。んじゃもう一つ頼むわ。山スキーを選んだ理由。  
 高井「山スキーはクロカンにも参加できることかな。去年美瑛行ったけど、なかなか面白かったよ。」  
 —クロカンから山スキーヤーに転向した人もおるで。  
 新井「確かにいたけど、2年目からだ精神的につらくて、自分より一年先に山スキーをやっている同期を見るのが悔しいらしい。気持ちはわからんでもない。」  
 高井「俺らが1年のときは、一つ上が二人いたけど、両方一年で山スキーやめたね。」  
 新井「それはもったいない。」  
 —1年目は選択を余儀なくされているわけか。大変や。しかしこの話題は避けるべきやったな。(笑)

## 4年目のデータファイル

表1 山スキーカ (クロカン調べ)



ターンカ：思い通りに曲がれるか。  
 急制動力：思い通りに止まることができるか、転んでいる人に雪をかけられるか。  
 道具愛着力：自分の道具にどれほど愛着がわくか。  
 小屋依存力：Ⅲ段階の山小屋をどれだけ利用し、もう一度利用したいか。  
 深雪愛着力：パウダースノーをどれだけ食べつくせるか。コース外にどれだけ足を運んだか。  
 山スキー夢中力：頭の中にどれほど山スキーのことっていっぱいか。

表2 思い出キーワード (クロカン調べ)



表3 山スキー参加率 (クロカン調べ)



表1：6つの項目について本人に直接アンケートを取った結果です。安定感のある高井、極端な傾向には新井と理解できます。  
 表2：山スキーヤーとしての二人の印象を、様々な人にクロカニストが聞き取り調査し、代表的なものを3つ取り上げました。  
 表3：今年二人がどのくらい山スキーの活動に参加するかを、クロカニストが調査し、計算した結果です。新井は期待はずれですが、高井の勇姿がまだまだ見られるようです。

1：さくらさんは山スキーOBで、ここ数年歩く会の新歓説明会で使われていたビデオを撮影・編集した。ホームページで鑑賞できる。

4年目は、

## ただのおっさん

一さて、私らはもう4年目ですが、今はどういう心境ですか？

高井「うーん、あんまり現役と変わらない。4年目になったら例会なんてあまり行かないと思ったけど。」

新井「お前は現役並に、いや現役以上に例会行ってるな。人数が足りないから参加した縦走は」

高井「なぜか石狩隊しか行かず。(笑)」

一ついてないな。私も人のこと言えんけど。」

新井「しかもシュナイダーで下るとは。(笑)これはすごいことだ。」

高井「そうか。じゃあお前はどのなんだ？」

新井「感慨深いものがあるよ。あと札幌にいるのも半年の命だ。本当にここにいたのかもわからない。」

一命とはおおげさやな。酔っ払うのもいい加減にしいや。

新井「すいません。まじめに答えませ。」

一では、今年の抱負を。

新井「今年は一本勝負の滑りをしたい。」

高井「一本勝負ってなにさ？」

新井「上から下まで止まらずに滑ること。」

一なるほど。ほな高井君は？

高井「俺は無意根に行けたらそれでいいや。」

新井「CLで行くの？」

高井「いや、Mで行きたい。(笑)」

新井「Mは楽だもんな。」

一君達おっさんやな。

新井「おっさんで何が悪い?! トイレ行ってくるわ。」

高井「いっトイレ。」



高井が行きたがっている無意根山の様子。大きな斜面が待ち構えている。

写真：荒川さん



インタビューが行われた当日の様子。新井は酔っ払っていたが、高井は冷静だった。

写真：新井さん

迷っているなら、

## 高井に聞け

一さて、そろそろまとめに入ろう。

二人は今年どれくらい山スキーに参加すんの？

新井「気分次第だね。計画に行くよりも、違う分野でサポートしたい。」

一例えば？

新井「それは教えられないよ。」

一もったいぶんなよ。まあいいや。

高井は？

高井「あんまり！段階には行きたくないね。面倒。」

新井「お前それでも後期会長か？」

一まあいいんじゃない。俺の分も頑張ってくれ。では、最後の質問だ。

1年目にメッセージを送ってやって

くれ。

高井「まあ悩んでいるなら俺に聞いてよ。」

新井「んじゃ俺の所には来ないでね。(笑)」

一以上が当日の内容である。本当はもっと長かったのだが、クロカンのイメージダウンにつながるという声があったため、省いた。

4年目についての基本的な理解は、新井がパウダースノー大好き、高井はオールラウンドもしくはよくわからない奴、という程度で結構である。気になったら高井に聞くのが良い。

最後にインタビューに協力していただいたクロカニストに感謝を申し上げたい。ありがとう。

文責 新井



# 6年目紹介

ずいぶん年老いてしまったが、  
山スキーをこよなく愛する個性豊かな6年目を紹介しましょう。

## レギュラー

・内堀 寛之

生息地：農学部

呼び名：うっちより

キーワード：うし、ぶた、骨折

今年は、6年間でもっとも山スキー計画に参加するという噂を聞くぐらい熱が入っているようだ。去年、靴と板を買い換えたあたりからも山スキー熱が感じられる。一段階が好きとの事なので、一年目は頻繁に会うことになるだろう。滑りは堅実な感じだが、数年のブランクが少し感じられる。見た目は怖いし、でかいので取っ付き難いかもしれないが、教えるのはうまいので悩んでいたなら話してみるといいだろう。

・中西 貴大

生息地：理学部

呼び名：ナカニシ、ぼんさん

キーワード：センター飲み

今年もそこそこ現れるという噂を聞くので、一年目もちょくちょく見かけることになるだろう。滑りは、独特の低い姿勢が特徴といえるだろう。通常低い姿勢は、安定度は増すが切り返しが遅れるので不利だと言われているのにもかかわらず、コザックダンスのような軽やかな動きを見せる彼の滑りは一見の価値あり。目指すも目指さないもその眼で見極めるといいだろう。

・吉澤 章博

生息地：工学部

呼び名：ジャガー

キーワード：放射線、レース

今年も例年通りの参加をすとの噂なのでしょっちゅう見かけるだろう。山のほうが好きなので、おそらくⅡやⅢ段階で見かけることとなるだろう。滑りは、レーサーということもありゲレンデではカービングターンがまあまあであるが、山ではいまいちかもしれない。昔からの夢の世界ランクはまだだが、日本ランク29位になったらいい。あと、ナイターに良く行くので、話しかけるとジャガーカーと一緒に連れてくれるだろう。

# 補欠

もう、計画には参加しないけれども、ゲレンデや話題として出てきそうな6年目達。

## ・井口 保宏（通称：いぐち）

ゲレンデには現れるかもしれないが、基本レアなので見かけた人は運がいいだろう。装備やフィールド技術については詳しいので、技術に不安を持つ場合には会った時にいろいろと聞いておくのもいいだろう。

## ・樋口 正輝（通称：ひぐち）

もう、テレマークはやらないらしいが、アルペンスキーでゲレンデに現れるかも。滑りというより、ジャンプや回転などのトリックが好きなので見ていて動きが面白いだろう。東京に住んでいるために数回しか会う機会もないだろうが、もしリフトで一緒になり話題に困った時は、「樋口理論って何ですか？」と尋ねておけば楽しい話が聞けるだろう。

## ・吉田 智哉（通称：ダッシュ）

社会人になり財力が增強されたために、ゲレンデや飲み会には現れる可能性も高い。ゲレンデでは話しかけてくれることを期待しているから、暇な時には話しかけてみよう。最近は社会人らしからぬ遊び方も有名で、無茶ぶりのスキーの誘いも乗ってくれるかもしれない。

